

資料5

大阪府森林環境整備事業 評価シート（中間評価）

担当課名	みどり推進室森づくり課
担当グループ名	森林整備グループ
連絡先	(06)6210-9559

1 事業概要

(単位:千円)

①概要等	事業実施年度	平成28～29年度
	評価年月日	平成30年7月9日
	施策区分	自然災害から府民の暮らしを守る取組み
	事業名	危険渓流の流木対策事業
	事業概要	流木対策・土石流発生源対策
②事業の目的	事業開始年度	平成28年度
	局地的な集中豪雨が頻繁に発生し、土石流の発生時に渓流沿いの木を巻き込んで流れ出すことで、河川や水路等をふさぎ、冠水や交通遮断など市街地における被害を拡大させる流木災害を未然に防止する。	

③事業費	年度別推移	H28	H29	H30	H31～	合計
	当初計画(千円)	298,000	522,000	546,000	640,632	2,006,632
	現計画(千円)	251,274	522,000	546,000	687,358	2,006,632
	執行額(千円)	251,274	454,695	—	—	—
④事業の内容	事業対象区域:山地災害危険地区「崩壊土砂流出危険地区」、保安林外(危険度Aランク・保全対象20戸以上・治山事業の未着手地域)					
	事業箇所数:30箇所 事業内容: ①ハード対策 土石流発生を抑制する治山ダムの整備 流木となる危険性の高い渓流沿いの立木の伐採、林外搬出 防災機能を強化する荒廃森林の整備(強度間伐等) ②ソフト対策 防災教室の開催、地域との協働による森林危険情報マップの作成 事業の効果検証等					

2 自己評価

(1) 事業実績(H28+H29)

⑤実績検証の内容	指標・検証方法		計画	実績	評価区分	理由
	土石流対策	指標	治山ダム	36基	36基	<input type="checkbox"/> 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> あまり妥当でない <input type="checkbox"/> 妥当でない
検証方法		事業の完成検査				
指標		森林整備	62ha	40.7ha		
検証方法		事業の完成検査				
流木対策	指標	渓流延長	4,170m	3,970m		
	検証方法	事業の完成検査				
減災対策	指標	森林危険情報マップ	(1年目)16箇所 (2年目)8箇所	(1年目)16箇所 (2年目)8箇所		
	検証方法	成果品(1年目:原案 2年目:マップ完成)				
	指標	防災教室	32回	32回		
	検証方法	実施回数				

(2) 事業効果(中間評価)

⑥効果検証の内容	指標・検証方法		評価区分	理由	
	土石流対策	指標	土石流の発生の抑制	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> あまり妥当でない <input type="checkbox"/> 妥当でない	(土石流対策) 治山ダム36基の設置より渓床勾配を緩和し、45,706㎡(10tダンプ約8,600台分)の土砂移動を抑制した。さらに、間伐など40.7haの森林整備を実施したことで、土石流発生の抑制効果が確認できた。 (流木対策) 平成29年10月の台風21号豪雨の前夜、新たな流木本数が、対照地の3.31本/100mに比べ、事業地は2.38本/100mであったことから、流木発生の抑制効果が確認できた。 林床被覆率については、事業地では対照地に比べ最大14.6%(調査箇所8箇所の平均)の増加が確認できた。一方、土壌の浸透能及び表面侵食量については、効果発現まで時間がかかると言われていることから、今後も継続して調査を実施していく。 (減災効果) 森林危険情報マップを作成した地域の森林について、説明を受ける前は55.4%の方が関心があったと答えたが、説明を受けた後は86.7%の方が関心が高まったと答えており、防災教室開催により地域の森林に対する関心が高まったことを確認した。 森林内で山崩れを発見した場合の府や市町村への連絡について、説明を受ける前は39.8%の方が連絡していたと答えたが、説明を受けた後は86.7%の方が連絡しようと思うと答えており、防災教室開催により地域住民による監視体制の強化に繋がることを確認した。 府や市町村が主催する防災イベントについて、説明を受ける前は48.2%の方が参加したことがあると答えたが、説明を受けた後は69.9%の方が参加しようと思うと答えており、防災教室開催により防災意識が高まったことを確認した。 大阪府の「おおさか防災情報メール」について、説明を受ける前は78.3%の方が登録していないと答えたが、このうち64.6%の方が説明を受けた後に登録しようと思うと答えており、防災教室開催により防災意識が高まったことを確認した。
検証方法		事業実施の確認			
流木対策		指標	流木の発生の抑制		
		検証方法	対照地との流木発生の比較調査		
		指標	林床被覆率の増加		
		検証方法	対照地との林床被覆率の比較調査		
減災対策		指標	土壌の浸透能の向上		
	検証方法	対照地との土壌浸透能の比較調査			
	指標	表面侵食の抑制			
減災対策	検証方法	対照地との表面侵食量の比較調査			
	指標	防災意識の向上(対象者の8割)			
検証方法	減災対策を行った地域住民へのアンケート				

(3) 自己評価(総合・中間評価)

⑦自己評価	総合評価	理由
<input checked="" type="checkbox"/> 評価できる <input type="checkbox"/> 概ね評価できる <input type="checkbox"/> あまり評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない	<input checked="" type="checkbox"/> 評価できる <input type="checkbox"/> 概ね評価できる <input type="checkbox"/> あまり評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない	事業実績については、概ね計画どおりに進捗しているのが妥当である。 事業効果については、妥当である。土石流対策、流木対策及び減災対策のいずれにおいても事業効果が確認できた。土壌の浸透能や表面侵食量の比較調査については、施行後の時間経過が未熟なため引き続き実施していく。

3 第三者評価

⑧第三者評価	大阪府森林環境整備事業評価審議会の意見
	○事業実績については、概ね計画どおりに進捗しているのが妥当である。 ○事業効果については、以下の理由により妥当である。 ・土石流対策については、事業実績から確認し、その効果が確認できた。 ・流木発生の抑制に関しては効果が確認できたものの、林床被覆率、土壌浸透能、表面侵食については施工後の時間経過が未熟なため、効果が確認できないので、追跡調査が必要であることを確認した。 ・防災教室に基づいて概ね防災意識の向上が確認できたので本事業は妥当である。

大阪府森林環境整備事業 評価シート（中間評価）

担当課名	みどり推進室森づくり課
担当グループ名	森林整備グループ
連絡先	(06)6210-9559

1 事業概要

①概要等	事業実施年度	平成28～29年度
	評価年月日	平成30年7月9日
	施策区分	自然災害から府民の暮らしを守る取組み
	事業名	主要道路沿いにおける倒木対策事業
	事業概要	ナラ枯れ等、放置竹林対策
	事業開始年度	平成28年度
②事業の目的	ナラ・カシ類などの広葉樹林の高齢化に伴い病害虫による枯死（ナラ枯れ）や放置竹林が増加しており、枯損木等による国道府道等への倒木・倒伏被害を未然に防止する。	

(単位:千円)

③事業費	年度別推移	H28	H29	H30	H31～	合計
	当初計画(千円)	255,000	291,000	276,000	194,000	1,016,000
	現計画(千円)	202,713	291,000	276,000	246,287	1,016,000
	執行額(千円)	202,713	217,640	—	—	—
④事業の内容	・事業対象区域:山地災害危険地区「山腹崩壊危険地区」(府県間等を結ぶ主要国道・府道20路線沿いの山崩れの危険がある森林) ・事業箇所数:ナラ枯れ等対策 約50箇所 放置竹林対策約40箇所 ・事業内容:①ナラ枯れ等対策 ナラ枯れ等の病虫害被害が予想される高齢木の予防伐採、被害木の処理、落石対策、作業用歩道の整備等 ②放置竹林対策 竹伐採、草刈、竹拡大防止柵の設置、広葉樹の苗木植栽、作業用歩道の整備等					

2 自己評価

(1) 事業実績(H28+H29)

⑤実績検証の内容	指標・検証方法		計画	実績	評価区分	理由
	指標	実施路線数	13路線	13路線	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> あまり妥当でない <input type="checkbox"/> 妥当でない	詳細な調査・測量をした結果、対策が必要な箇所について事業を実施した。 なお、施工範囲の精査により、面積や箇所数が増減したが、計画通りの路線で事業を実施することができた。
	検証方法	事業の完成検査				
	指標	ナラ枯れ等対策実施面積	78ha	75ha		
	検証方法	事業の完成検査	25箇所	30箇所		
	指標	放置竹林対策実施面積	4ha	4ha		
検証方法	事業の完成検査	16箇所	12箇所			

(2) 事業効果(中間評価)

⑥効果検証の内容	指標・検証方法		評価区分	理由
	指標	通行障害の発生の抑制	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> あまり妥当でない <input type="checkbox"/> 妥当でない	平成28年度・29年度に事業を実施した13路線の道路管理者(6土木事務所・1市)から、事業実施後、全路線において、危険木による通行障害の発生が無いことが確認できた。 また、農と緑の総合事務所(4事務所)による事業実施箇所の追跡調査においても、危険木等の発生がないことが確認できた。 以上のことから、事業実施により、府内主要道路の通行障害の発生が抑制されていることが確認できた。
	検証方法	事業実施後の通行障害発生の有無		
現地追跡調査による危険木等の発生確認				

(3) 自己評価(総合・中間評価)

⑦自己評価	総合評価	理由
	<input checked="" type="checkbox"/> 評価できる <input type="checkbox"/> 概ね評価できる <input type="checkbox"/> あまり評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない	事業実績については、妥当である。 事業効果については、以下の理由により妥当である。 ・事業実施後の危険木による通行障害の発生並びに現地追跡調査による通行の安全性を阻害する危険木等の発生の抑制については、いずれも効果が確認できた。

3 第三者評価

⑧第三者評価	大阪府森林環境整備事業評価審議会の意見
	○事業実績については、概ね計画どおり進捗しているため妥当である。 ○事業効果については、以下の理由により妥当である。 ・事業実施後の危険木による通行障害の発生並びに現地追跡調査による通行の安全性を阻害する危険木等の発生の抑制については、いずれも効果が確認できた。

大阪府森林環境整備事業 評価シート（中間評価）

担当課名	みどり推進室森づくり課
担当グループ名	森林支援グループ
連絡先	(06)6210-9556

1 事業概要

(単位:千円)

①概要等	事業実施年度	平成28~29年度
	評価年月日	平成30年7月9日
	施策区分	健全な森林を次世代へつなぐ取組み
	事業名	持続的な森づくり推進事業(基盤づくり)
	事業概要	基幹作業道の舗装・集積土場の整備
②事業の目的	事業開始年度	平成28年度
	所有形態が小規模・分散化した森林をまとめた団地として集約化し、基幹的な作業道の舗装や木材集積土場の設置などの基盤づくりを進め、計画的な間伐促進を図るとともに、安定的に木材を供給できる体制を構築する。	

③事業費	年度別推移	H28	H29	H30	H31~	合計
	当初計画(千円)	321,000	205,800	241,800	312,200	1,080,800
	現計画(千円)	237,668	205,800	325,132	312,200	1,080,800
	執行額(千円)	237,668	165,718	-	-	-
④事業の内容	基幹的な作業道や木材集積土場の設置など、計画的な間伐促進を図るための基盤づくりに必要な経費を助成					
	○事業箇所数:34地区(4,800ha) ○事業主体:森林所有者から森林施業を委託された林業事業者 ○補助率:定額(工種毎の補助単価に基づき算出) ○対象森林: ①集約化により一体的な森林管理が可能な、区域面積が概ね100ha以上の人工林で、森林法に基づく森林経営計画が作成され、計画的な間伐や搬出が見込まれること。 ②森林所有者や林業事業者が、本事業により整備した基盤施設を活用し、間伐や植栽等の森林経営を長期にわたって継続的に実施する見込みがあること。					

2 自己評価

(1)事業実績(H28+H29)

⑤実績検証の内容	指標・検証方法		計画	実績	評価区分	理由
	指標	基幹作業道の舗装	15,200m	8,908m		
検証方法	事業の完成検査					
指標	集積土場の整備	32箇所	19箇所			
検証方法	事業の完成検査					

(2)事業効果(中間評価)

⑥効果検証の内容	指標・検証方法		評価区分	理由
	指標	34箇所・4,800haの森林の健全化		
検証方法	間伐実施量の確認			
	間伐材搬出量の確認			
	協定締結した森林所有者数の確認			

(3)自己評価(総合・中間評価)

⑦自己評価	総合評価	理由
	<input type="checkbox"/> 評価できる <input checked="" type="checkbox"/> 概ね評価できる <input type="checkbox"/> あまり評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない	事業実績については、概ね妥当である。 事業効果については、妥当である。事業の目的である集約化による間伐と木材搬出の促進は進んでいるが、台風等の自然災害により、舗装等の基盤整備については、進捗の遅れが発生している。これより、必要箇所については、スケジュール等の計画の見直しを実施。

3 第三者評価

⑧第三者評価	大阪府森林環境整備事業評価審議会の意見	
		○事業実績については、概ね妥当である。 ・自然災害の影響によって、事業実績は目標をやや下回っているものの、工程計画の見直しを今後行うことを前提に概ね妥当と判断した。 ○事業効果については、以下の理由により妥当である。 ・事業実績が6割程度にとどまっているにもかかわらず、間伐実施量、間伐搬出量とも計画上の8割近くの数値を上げており、効果が確認できた。さらに長期間の森林経営実施担保のための協定締結が302人に上ったことから、その効果が確認できた。

大阪府森林環境整備事業 評価シート（中間評価）

担当課名	みどり推進室森づくり課
担当グループ名	森林支援グループ
連絡先	(06)6210-9556

1 事業概要

①概要等	事業実施年度	平成28～29年度
	評価年月日	平成30年7月9日
	施策区分	健全な森林を次世代へつなぐ取組み
	事業名	持続的な森づくり推進事業(人材育成)
	事業概要	森林経営リーダー・府内産材コーディネーター人材育成
②事業の目的	事業開始年度	平成28年度
	林業技術や森林経営等の知識・ノウハウを持ち、地域の森林管理の中核を担う森林経営リーダー(若手従事者(後継者))や川上から川下までの関係者とネットワークを構築し、府内産材に関する流通等のコーディネーター役となる人材を確保し、長期にわたる森林経営の適切な実施や府内産材の需要拡大により、持続的な森づくりを推進する。	

(単位:千円)

③事業費	年度別推移	H28	H29	H30	H31～	合計
	当初計画(千円)	1,050	1,050	1,050	1,050	4,200
	現計画(千円)	300	1,050	1,400	1,450	4,200
	執行額(千円)	300	733	-	-	-
④事業の内容	森林経営リーダーや府内産材コーディネーターを確保するため、専門家等による講座や現地研修等を開催する。 ○事業主体:大阪府 ○事業内容等: ①府内産材コーディネーターの育成(10名) ・木材流通業者を対象に木材業経営についての講義を基軸に川上・川下従事者での意見交換を含めた研修を実施。 ・研修回数:3回/年(1年で終了)[H28] ②森林経営リーダーの育成(12名) ・森林経営について先進的な取組みを行う林業従事者や民間企業、森林・木材に関する学識者等への講師派遣の依頼により、森林経営や施業技術、集約化プランニング等の講義や現地研修等を実施。 ・研修回数:4回/年×3か年=全12回[H29～H31で実施]					

2 自己評価

(1)事業実績(H28+H29)

⑤実績検証の内容	指標・検証方法		計画	実績	評価区分	理由
	指標	府内産材コーディネーターの育成	10人	12人	■ 妥当である □ 概ね妥当である □ あまり妥当でない □ 妥当でない	当初の計画は、達成できた。人材育成については、講座の受講者数がH28年度は予定の10人に対し、12人、H29年度は予定の12人に対し、17人が受講(3ヶ年講座)し、現在受講期間中である。
検証方法	講座受講者数確認					
	指標	森林経営リーダー	12人	17人		
	検証方法	講座受講者数確認				

(2)事業効果(中間評価)

⑥効果検証の内容	指標・検証方法		評価区分	理由
	指標	森林管理、府内産材の流通・需要拡大に関する理解度の向上	■ 妥当である	聞き取り調査の結果から、受講者全員が、今後の府内産材の利用の拡大、流通の改善につながると全員感じていること。また、講演では、府内産材の利用方法や利用価値を知ることができ、利用促進に対する意識が出たと具体的な意見もあることから、受講者は府内産材の流通・需要拡大に関する理解度が向上したことが確認できた。 聞き取り調査の結果から、9人中8人の受講者が、川上から川下までのネットワークを構築する上での課題が明らかになったと感じていること。府内産材の流通・需要拡大を目指すうえで、川上から川下までのネットワークの構築が必要不可欠と受講者全員が感じ、今後、課題解決に向け、継続して議論を実施する機会を9人中8人の受講者が希望していることから、受講者が課題解決に向けた意思を持っていることを確認できた。 以上のことに併せて、本事業の目的である府内産材に関する流通等のコーディネーターとして、府内産材の需要拡大に9人中8人の受講者が取組んでいく意志を示していることから、本事業実施の効果を確認することができた。
検証方法	受講者への聞き取りによる意識調査	□ 概ね妥当である		
指標	今後の課題解決に向けた意志確認	□ あまり妥当でない		
検証方法	受講者への聞き取りによる意識調査	□ 妥当でない		

(3)自己評価(総合・中間評価)

⑦自己評価	総合評価	理由
□ 評価できる	事業実績については、妥当である。 事業効果については、妥当である。、平成28年度受講生については、府内産材の流通・需要拡大に関する理解度の向上及び今後の課題解決に向けた意志の確認ができた。 平成29年度受講生については、講座全課程が完了しておらず意識調査は実施していないため中間評価での効果検証は行っていない。平成28年度で実施した意見交換会は継続して実施しており、森林管理及び府内産材の流通・需要拡大に関して理解を深めているところである。	
■ 概ね評価できる		
□ あまり評価できない		
□ 評価できない		

3 第三者評価

⑧第三者評価	大阪府森林環境整備事業評価審議会の意見
	○事業実績については、以下の理由により妥当である。 ・府内産材コーディネーター育成に対しては計画どおり進捗していることが確認できた。一方、森林経営リーダー育成については受講が3年間の1年目に当たり、事業が継続中であることを確認した。 ○事業効果については、以下の理由により概ね妥当である。 ・府内産材コーディネーター育成講座の受講者に対する効果を検証した結果、効果が確認できたので妥当である。一方、森林経営リーダー育成については、3年間の受講の1年目にあたり、効果の検証は受講後とすることを確認した。

大阪府森林環境整備事業 評価シート（中間評価）

担当課名	みどり推進室森づくり課
担当グループ名	森林支援グループ
連絡先	(06)6210-9556

1 事業概要

①概要等	事業実施年度	平成28～29年度
	評価年月日	平成30年7月9日
	施策区分	健全な森林を次世代へつなぐ取組み
	事業名	持続的な森づくり推進事業(未利用木質資源(林地残材等)活用)
	事業概要	搬出体制の構築に向けた事務局の設置・活動状況を周知
②事業の目的	事業開始年度	平成28年度
	人工林や里山林で伐採後放置された林地残材(未利用材)の有効活用により森林の健全化を図るため、林業事業者や森林所有者、地域で活動する里山保全活動団体等が林地残材を自ら断続的・安定的に搬出するために必要な仕組みを構築する。	

(単位:千円)

③事業費	年度別推移	H28	H29	H30	H31～	合計
	当初計画(千円)	2,851	18,071	2,400	1,400	24,722
	現計画(千円)	2,255	18,071	2,400	1,996	24,722
	執行額(千円)	2,255	15,009	—	—	—
④事業の内容	本事業は平成29年度に見直しを行い、林業事業者や森林所有者、地域で活動する里山保全活動団体等に対する林地残材搬出用機械等の貸与や搬出された材を活用する木質バイオマス利用事業者等とのマッチングを行い、林地残材を断続的・安定的に搬出する仕組みづくりの一環として平成29年度～平成31年度の3ヶ年に亘り本事業を担う事業者を選定し、運営を委託するものとした。					

2 自己評価

(1) 事業実績(H28+H29)

⑤実績検証の内容	指標・検証方法		計画	実績	評価区分	理由
	H28年度 H29年度	指標	搬出材積	100m ³	107m ³	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> あまり妥当でない <input type="checkbox"/> 妥当でない
検証方法		実績の確認				
指標		活動状況を周知	5回	3回		
検証方法		地域協議会等の場				
指標		活動中核団体数	2団体	5団体		
検証方法		実績の確認				
指標	搬出活動参加延べ人数	100人	75人			
検証方法	実績の確認					

(2) 事業効果(中間評価)

※⑥効果検証の内容	指標・検証方法		評価区分	理由
	指標	関係者の理解度の向上	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> あまり妥当でない <input type="checkbox"/> 妥当でない	以下の理由により、事業実施の効果を確認することができた。 搬出活動を担う中核団体数については、最終計画数である6団体に対し5団体が確保できた。一方、搬出活動参加延べ人数については、最終計画数300人に対し、75人の確保に止まったが、5団体の会員数が385人であることから、今後の活動に大きく期待できることを確認した。 さらに聞き取り調査により、森林所有者と木質バイオマス発電事業者については、未利用材の断続的・安定的な活用の実現のために必要な理解を得ていることが確認できた。中核団体の搬出活動への参画については、理解を得ているものの、搬出活動の拡大については、課題もあり一定時間をかけて取り組んでいく必要があることを確認した。
	検証方法	森林所有者、活動参加者への意識調査		
	指標	搬出活動参加延べ人数(300人)		
	検証方法	実績の確認		
	指標	活動中核団体数(6団体)		
検証方法	実績の確認			

※平成29年度に見直しを行った指標に対する効果検証

(3) 自己評価(総合・中間評価)

⑦自己評価	総合評価	理由
	<input checked="" type="checkbox"/> 評価できる <input type="checkbox"/> 概ね評価できる <input type="checkbox"/> あまり評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない	事業実績については、妥当である。(平成29年度に見直しを行った指標に基づく評価として妥当) 事業効果については、妥当である。提案公募方式によって本事業を担う事務局を選定し、現在、事務局が集めた搬出活動を担う中核団体の参画を得て、未利用材の活用の仕組みを構築しつつあることが確認できた。

3 第三者評価

⑧第三者評価	大阪府森林環境整備事業評価審議会の意見	
	○事業実績については妥当である。 ・平成29年度から事業を見直した結果、林地残材を断続的・安定的に搬出する仕組みづくりの一環として平成29年度～平成31年度の3ヶ年に亘り本事業を担う事業者を適切に選定することができたことから妥当と判断した。 ○事業効果については以下の理由により妥当である。 ・搬出活動参加延べ人数は計画数を下回ったものの、搬出活動を担う中核団体数は計画数を大きく上回っており、今後の活動も大きく期待できること、さらに、聞き取り調査により、森林所有者と木質バイオマス発電事業者については、未利用材の断続的・安定的な活用の実現のために必要な理解を得ていることが確認できた。	

大阪府森林環境整備事業 評価シート（中間評価）

担当課名	みどり推進室森づくり課
担当グループ名	森林支援グループ
連絡先	(06)6210-9556

1 事業概要

①概要等	事業実施年度	平成28～29年度
	評価年月日	平成30年7月9日
	施策区分	健全な森林を次世代へつなぐ取組み
	事業名	子育て施設木のぬくもり推進事業
	事業概要	木育・内装木質化推進
	事業開始年度	平成28年度
②事業の目的	幼稚園、保育所、認定子ども園の子育て施設を対象に、床や壁など、内装の木質化を支援することにより、子どもの生育環境の充実を図るとともに、子どものうちから木材に対する理解を深める「木育」の促進、及び府内の森林資源の循環利用による健全な森林の保全に資することを目的とする。	

(単位:千円)

③事業費	年度別推移	H28	H29	H30	H31～	合計
	当初計画(千円)	75,300	100,400	100,400	100,400	376,500
	現計画(千円)	67,934	100,400	107,766	100,400	376,500
	執行額(千円)	67,934	52,231	—	—	—
④事業の内容	・内装(床・壁)木質化に対して、その必要となる経費を支援する ○対象施設:府内の幼稚園及び認可保育所(認定子ども園を含む) ○補助率:1/2(上限2,500千円) ○補助要件: ・原則、『おおさか材』(認証材)を使用する ・施設の職員等が木育リーダーとなり、内装木質化や木材の良さを地域に広くPRする					

2 自己評価

(1)事業実績(H28+H29)

⑤実績検証の内容	指標・検証方法		計画	実績	評価区分	理由
	指標	子育て施設の内装木質化	70園	69園	<input type="checkbox"/> 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> あまり妥当でない <input type="checkbox"/> 妥当でない	計画予定施設数は下回ったものの、おおさか材使用量・木育リーダーの数は計画を上回る実績であったことから妥当である。なお、施設数については、平成29年度実績数が平成28年度実績数より若干低下していることから、PRの強化を図っていることを確認した。
	検証方法	木質化した園数				
	指標	おおさか材使用量	105㎡	149㎡		
	検証方法	おおさか材使用量の確認				
	指標	木育リーダーの人数	70人	84人		
検証方法	木育リーダーの人数の確認					

(2)事業効果(中間評価)

⑥効果検証の内容	指標・検証方法		評価区分	理由
	指標	利用者の木材利用に関する理解度の向上	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 概ね妥当である <input type="checkbox"/> あまり妥当でない <input type="checkbox"/> 妥当でない	施設職員及び施設利用者(保護者)を対象にしたアンケート調査結果から、本事業の実施により、88.6%の方が、木製化や木製品に対する関心が高まったと回答している。また、80.9%の方が家庭でも床や壁等に木を使いたいと思ったと回答していることから、子育て施設の利用者は木材利用に関する理解度が向上したことが確認できた。 また、施設職員及び施設利用者(保護者)の80.2%の方が、「木育」を通して、木製化、木製品や森林に関心を持ったと回答していることから、木を使った床や壁を実際に見た経験に加えて、「木育」活動の実施は、木材利用に関する理解度を向上させるのに有効であることを確認した。 以上のことから、本事業の実施効果が確認できた。一方、木育リーダーの64.3%が本事業の実施により、「木育」の取組みを初めて知ったと回答していることに加え、自由意見で「木育」の取組みをいかにPRすべきか悩んでいるという意見も見られたことから、「木育」の取組みを今後とも強化していくべきであることも確認することができた。
	検証方法	アンケートの実施		

(3)自己評価(総合・中間評価)

⑦自己評価	総合評価		理由
	<input type="checkbox"/> 評価できる	事業実績については、概ね妥当である。 事業効果については、妥当である。内装木質化を実施した施設におけるアンケート調査で、9割近くが本事業の実施により、木製化や木製品に対する関心が高まったと回答しており、高い事業効果が確認できた。	
	<input checked="" type="checkbox"/> 概ね評価できる		
	<input type="checkbox"/> あまり評価できない		
	<input type="checkbox"/> 評価できない		

3 第三者評価

大阪府森林環境整備事業評価審議会の意見	
⑧第三者評価	○事業実績については、以下の理由により概ね妥当である。 ・計画量に対して実績量が概ね達成しており、妥当と判断できるが、平成29年度に事業を実施した施設数が平成28年度に比べて若干低下しているが、PRの強化を図っていることを確認した。 ○事業効果については、以下の理由により妥当である。 ・アンケート調査から、本事業の実施により子育て施設の利用者が木材利用に関する理解度が向上し、「木育」活動の実施が、木材利用に関する理解度を向上させるのに有効であることが確認できた。